

平成25年度第3回 福岡市立学校環境衛生懇話会

平成26年2月5日(水)

【学校保健安全法】(平成20年6月改正)

第一条 この法律は、学校における児童生徒等及び職員の健康の保持増進を図るため、学校における保健管理に関し必要な事項を定めるとともに、**学校における教育活動が安全な環境において実施され**、児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における安全管理に関し必要な事項を定め、もつて学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的とする。

第六条 文部科学大臣は、学校における換気、採光、照明、保温、清潔保持その他環境衛生に係る事項について、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準（以下この条において「**学校環境衛生基準**」という。）を定めるものとする。
2 学校の設置者は、**学校環境衛生基準**に照らしてその設置する学校の適切な環境の維持に努めなければならない。

【学校環境衛生基準】(平成21年4月1日施行)

教室等の温度については
「10℃以上、**30℃以下**であることが望ましい」

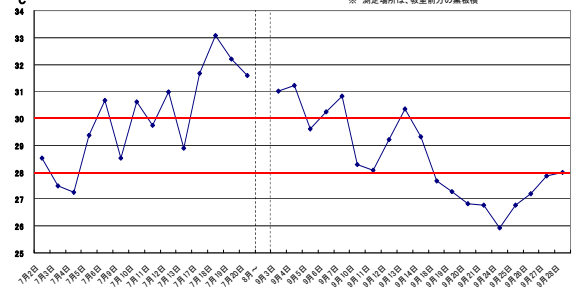


『学校環境衛生管理マニュアル』

「児童生徒等に生理的、心理的に負担をかけない最も学習に望ましい条件は、
冬期で18～20℃、**夏期で25～28℃程度**である。」

【24年度調査結果】

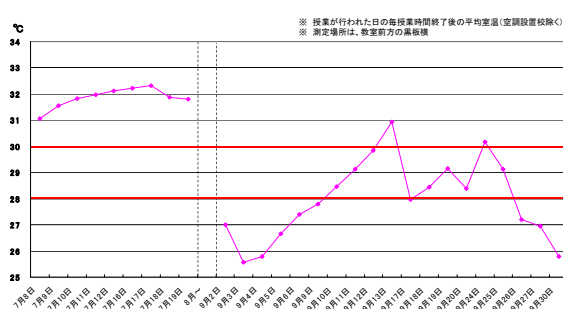
日ごとの平均教室温度



◇ 調査した全教室の平均室温は、7月上旬から夏休みをはさみ9月中旬まで、連日28℃を超え、30℃を超えた日も12日と多かった。

【25年度調査結果】

日ごとの平均教室温度



【福岡市の気候の状況 1】

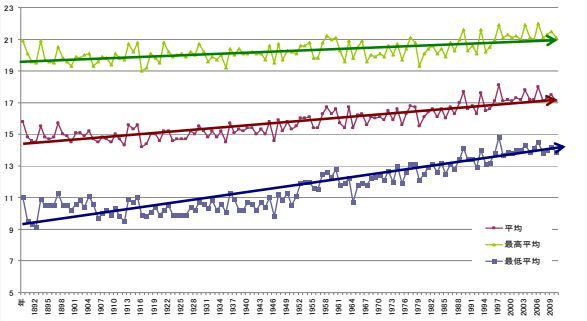
過去5年間の「真夏日」「猛暑日」等

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
真夏日 (最高気温が30℃以上の日)	(5/12～) 67日	(6/11～) 74日	(5/9～) 73日	(6/14～) 63日	(5/24～) 77日
猛暑日 (最高気温が35℃以上の日)	0日	(7/20～) 24日	(7/9～) 8日	(7/18～) 10日	(7/11～) 30日 ※全国9位
平均気温が30℃以上の日	(7/13～) 7日	(7/19～) 31日	(6/23～) 11日	(7/15～) 16日	(7/5～) 41日 ※全国1位
最高気温	34.6℃ (8/21)	37.4℃ (8/28)	36.1℃ (8/3)	37.5℃ (8/2)	37.6℃ (8/20)

◇ 毎年6月中旬までに「真夏日」を、また、ほとんどの年で7月中旬までに「猛暑日」を記録している。
◇ 25年度は平均気温が30℃を超えた日が41日となり、全国1位を記録している。

【福岡市の気候の状況 2】

福岡市の年平均気温の推移(1892~)



◇平均気温・最高気温・最低気温、全て上昇傾向にあり、特にこの30年間は大きく上昇し、最低気温は、3℃近く上がっている。

【新指導要領による小・中学校の授業時数の増加】

小学校	学年	旧指導要領	新指導要領 (23年度~)	増加時数
	1年	780	850	+70
2年	840	910	+70	
3年	910	945	+35	
4年	945	980	+35	
5年	945	980	+35	
6年	945	980	+35	

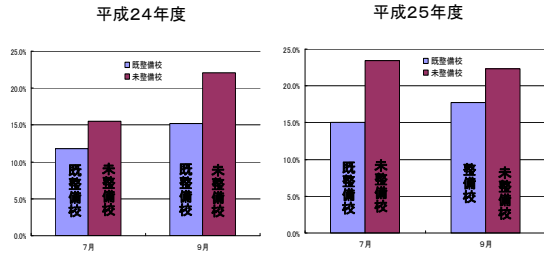
中学校	学年	旧指導要領	新指導要領 (24年度~)	増加時数
	1年	980	1015	+35
2年	980	1015	+35	
3年	980	1015	+35	

◇学習指導要領の改定に伴い、授業時数が増加し、夏休み前に行っていた短縮授業(午前中だけの授業)ができにくくなっている。

【夏季の保健室来室児童割合】

(空調機未整備校と整備校)

※未整備4校・既整備4校を抽出

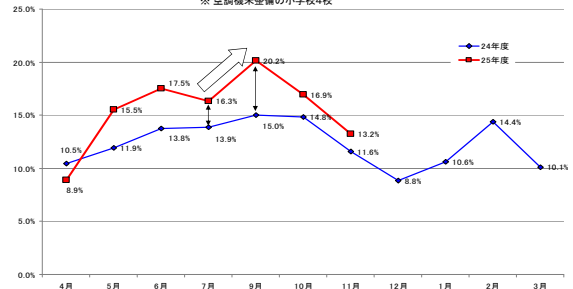


◇空調機未整備校の方が整備校よりも、保健室へ来室する児童が多い傾向にある。

【保健室への来室児童の月別割合】

(空調機未整備校)

※空調機未整備の小学校4校

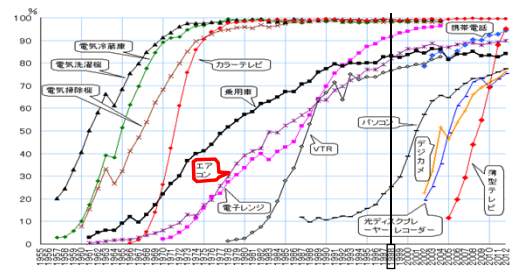


◇夏休み明けの9月は、保健室に来室する児童の割合が増加する傾向にあり、特に25年は7・8月が暑かったため、その反動で9月に急増している。

【能動汗腺について】

- 汗を出す汗腺「能動汗腺」は、日本人では平均230万個程度。
- 能動汗腺の数は、**生後2年半**にどれだけの暑さにさらされるかによって決まる。
- 同じ日本人であっても、暑い地方で生まれ育った場合は平均的な日本人より能動汗腺数が多くなる。

【家庭でのエアコンの普及状況】



(注) 単身世帯以外の一般世帯が対象。1963年までは人口5万以上の都市世帯のみ。1957年は9月調査、58~77年は2月調査、78年以降は3月調査。05年より調査項目変更。デジカメは05年よりカメラ付き携帯電話を含まず。薄型テレビはカラーテレビの一部。光ディスクプレーヤー・レコーダーはDVD用、ブルーレイ用を含む。

(資料)内閣府「消費動向調査」

◇今の中学3年生が生まれた1998年のエアコン普及率は80%を超え、さらに、今では90%を超えており、現代の小中学生のほとんどは、生まれたときから空調の整備された部屋で生活していると見て良い。